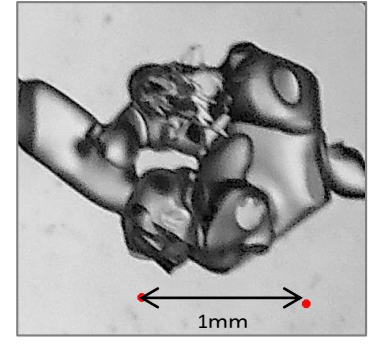
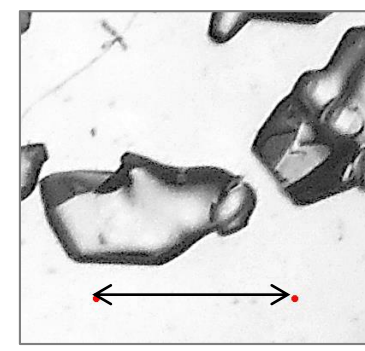
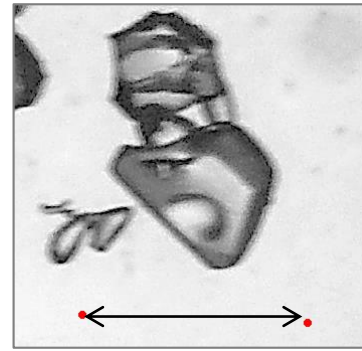
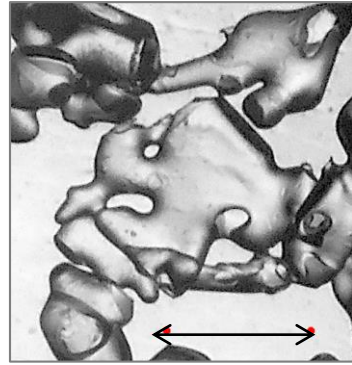
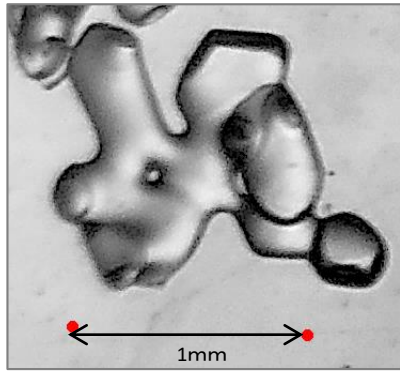
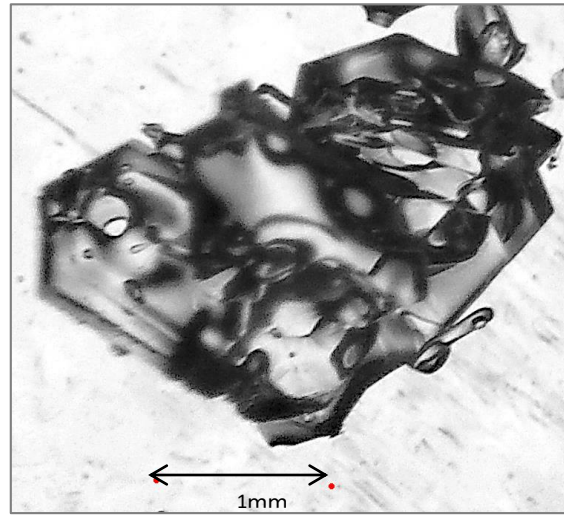
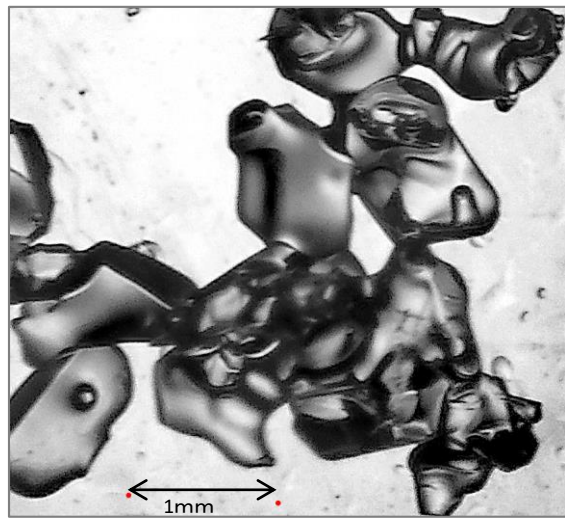


①



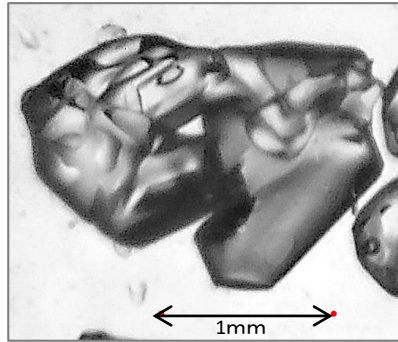
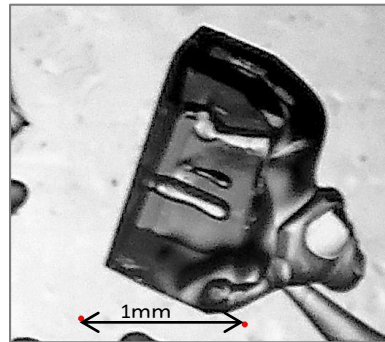
②



観測者: 秋田谷英次
(雪氷ネットワーク理事)
松浦孝之(北海道雪崩
研究会理事)

「ざらめ」と
「しまり」の
互層

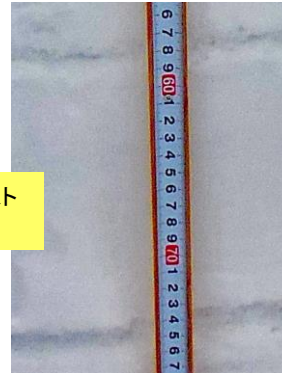
②



①
上から58cm

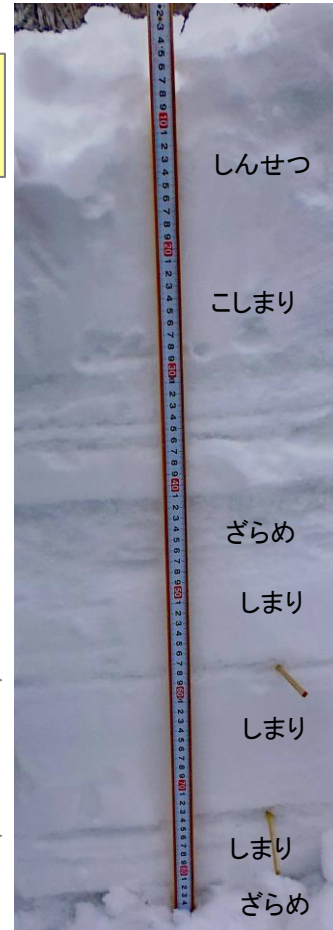
シャベルテスト
で破壊せず

②
上から75cm



弱層①

弱層②



目的: 2020/2/10日、羊蹄山で雪崩、1名死亡。
2/12の現地調査で2、3層の弱層を確認。
参照: 雪氷学会北海道支部、災害調査チーム
「事例/2020/02-10 羊蹄山雪崩調査」
麓でもこれらの弱層が存在したかの確認。
確認できれば、麓での調査も価値がある。

観測日: 2020/2/19 12時~133時。
観測場所: ニセコ町近藤(羊蹄山の南西約8km
(地図上で)の林に囲まれた畑地
(標高272m、周囲に別荘多数)。
天候: 雪、途中車はライト点灯も。
気温-4℃。撮影は降雪が大きな妨げになった。
弱層粒子を69枚撮影。約1時間を要した。

所見
弱層①: 平板状結晶の一部が残っている
(左の3枚)、平らな面が明瞭・角ばっている。
雲粒なし降雪が「こしまり」に変化。
調査チーム報告の、Pit-2の弱層1、
弱層2に該当と思われる。
弱層②: 角ばっているので「こしまり」。
しかし、もとの粒が大きく、融解・凍結でできた
「ざらめゆき」が温度勾配で「こしまり」化した。
前報告、pit-1の弱層1、弱層2に該当すると
思われる。
結論: 顕著な弱層は麓でも1週間後に確認
できた。